



祐介の目

No.177

大田祐介 (福山市議会議員)

神辺町出身の箱田良助である。福山藩士は新政府に忠誠を示すために勇敢に戦った。その模様は誠之館高校教諭・森本繁「福山藩幕末維新史」に記されているので参照されたい。激戦の末、5月17日に榎本武揚は五稜郭にて降伏した。

函館戦争と福山藩

先日、はじめて函館を訪問した。函館と言えば五稜郭、幕末に築かれた星形フランス風要塞だ。同様の要塞はフランスのアルザス地方にも多数残されている。さて、五稜郭タワーで明治2年の函館戦争について学び、備後福山藩から岡田吉顕を司令官として621人の藩士が派遣されたことを知った。かつて譜代だった福山藩は長州藩に攻め込まれた福山戦争で恭順(降伏)したが、長州藩が福山城内に乱入せんという際に、備後護国神社の山に掘られた塹壕に身を潜めた鉄砲隊が一斉射撃をして食い止めた。今でも神社の赤門に当時の弾痕が残る。その赤門は昨年、福山自動車時計博物館の能宗館長の尽力によりリニューアルされた。

以後、福山藩は新政府軍の一員となり海路下関経由で函館まで行き、榎本武揚率いる旧幕府軍と戦う羽目になった。なお、榎本武揚の父は福山市

滞在最終日、何も知らずに函館護国神社を参拝すると「新政府軍の墓地」があり、なんと「備後福山藩・佐藤定次郎」他、十数名の福山藩士の墓碑があつた。備後護国神社の総代である私を呼び寄せてくれたと感じた。なぜなら備後護国神社に最初に祀られた戦死者は、函館戦争の戦死者だからだ。佐藤定次郎は最後の激戦地・千代が岡で5月16日に戦死していた。備後護国神社に「生捨義取」(命を捨てても義を取る)の碑があり、函館戦争において戦死した福山藩士の名が刻まれ、そこに佐藤の名も残されている。

その後の廃藩置県により福山県は深津県・小田県・岡山県と経て、明治9年にやっと広島県に編入された。幕末からの動乱期、福山藩の命運を背負って戦った若き藩士達にいたことを多くの市民にも知っていただきたい。護国神社は歴史の学び場でもある。